

いたちかわらばん

通刊59号 颯川・狹川 / 川原版・瓦版 '12 秋号



【版画 宗森英夫】

【長倉町小川アメニティの手押し揚水ポンプ】

手押し揚水ポンプ

いたち川には、長倉町と矢沢堀の二か所の小川アメニティに上図のような手押し揚水ポンプが設置されています。両方とも、たんなる飾りではなく、実際に水を汲み上げることができま

す。現在のように水道が普及していなかった時代には、井戸水を汲み上げるために多くの地域で使われていました。（※長倉町と矢沢堀のポンプの水は飲料用ではありません）

現在の子どもたちに、昔の生活を知ってもらうために、わざわざ設置してあるのです。阪神淡路大震災以降、災害時の生活用水・雑用水の確保に役立つことからポンプの有効性が見直され、各自治体もポンプ井戸の登録を行

なっているようです。先日、テレビを見ていましたら、東京都の練馬区では区役所が補助金を出してまで、このポンプの設置を奨励していることが報道されました。直下型の地震などで水道が断水しても、飲料水が確保できるからです。

いざという時に備えて、昔の用具を活用するのも、一つの生活の知恵でしょう。

（ポンプの原理については次ページに図示）

（いもり）

お米ができるまで（後編）

2011年6月に発行した第54号いたちかわらばんの「お米ができるまで」で、籾（もみ）の根だしから田植え後の雑草とりまでの話を書きました。今回はその続きです。

● 稲刈り

①田植えから約150日経過した頃に、緑色をしていた稲の穂が黄金色に変わったことを確認して稲刈り専用の鎌（かま）で稲を刈り取ります。

②刈り取った稲を天日干しにするために稲掛けをします。「稲掛け」とは、刈った稲をヒモなどで束ね、稲穂を下にして掛けておくことです。

● 脱穀（だっこく）

天日干しにより乾いた稲穂を脱穀機にかけて、稲穂から籾を取り出します。この作業を「脱穀」といいます。

なお、荒井沢市民の森では昔ながらの足踏み脱穀機を使って脱穀した後に、唐箕（とうみ）を使って米と藁などの不要物を選別しています。

● 籾摺り（もみすり）

機械を使って籾を「米」と「籾殻（もみがら）」とに分けます。この作業を「籾摺り」といい、使う機械を「籾摺機」といいます。

● 精米

籾殻を取り除いた米を「玄米（げんまい）」といいます。玄米には、種皮が付いているので精米機にかけてこれを取り除き「白米」にします。この時に取り除かれて粉状となったものを「米糠（こめぬか）」といい、また白米を通常「米」といって私たちは毎日のように食べています。

いかがでしたか。私たちが毎日食べる米は、約半年もの時間をかけてこのような工程を経て作られたものです。荒井沢市民の森では、今年もたくさんの稲穂が実っています。このかわらばんが発行される頃になれば、いよいよ収穫です。荒井沢市民の森を訪れたら、ぜひ稲穂が風に揺れる田んぼにも目を向けてみてください。

（荒井沢市民の森愛護会 佐藤徳人）



荒井沢市民の森では、愛護会の指導で毎年近隣の小学校の児童が田植えの体験実習を行っています。



キャンドルナイト in さかえ 2012 開催

11月17日（土）本郷台駅前広場

（キャンドル点灯17時から）

2005年から本郷台駅前が始まったキャンドルナイトが今回で記念となる10回目を迎えます。

秋の夜、電気を消してキャンドルのやさしい明かりのもとで音楽の調べが楽しめます。日常を忘れてスロウな夜を過ごしてみませんか？

発行：狹川IOTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKETA事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅谷 1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

（お便り・お問い合わせはこちらまで）

発行年月
2012年9月

通刊59号

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



